

和食の知恵を世界に

松江

人と水と食のシンポ 250人参加、意見交換



自然食メニューを囲んで交流する参加者たち
＝松江市朝日町の松江東急イン

環境保護や自然食に関心を持つ人々のネットワークを構築を目指し、「人と水と食のシンポ」が七日

町の松江東急インで開かれた。小松昭夫同シンポ実行委員会代表が「出会の第一歩に」とあいさつ。独特のバイオ処理法で湖沼浄化に取り組む岸博氏（農村環境研究会主宰）の報告に続き、国際的な自然食運動を指導する久司道夫氏が「健康の快復と世界平和」と題して講演した。肉食偏重など各国での食生活の乱れや健康破たんに触れた久司氏は、「環境に支配される人間だが、自らの食物はコントロールが可能。調和のとれた日本食は世界で最も優れている」と述べ、自然と食文化を残す山陰から伝統食の知恵を世界に伝えようと呼びかけた。

講演後の交流会では、有機農法でとれた作物や新鮮な地元食材を使い、「小豆入り玄米ご飯」「アゴのパン粉付け焼き」など十五種類以上の特別メニューがずらり。参加者は舌鼓を打ちながら情報交換をし合っていた。関係者は、同様のテーマで十一月に「神在月縁結び全国大会」（会場・松江市）を計画、ネット拡大を図る。